甲陽軍鑑卷第四

實玉閣書
WA 32
1
4

甲陽軍鑑 3 5 冊 WA 3 2 − 1
0 4 − 0 0 1
国立国会図書館

甲陽軍鑑　３５冊　WA３２－１

０４－００２
国立国会図書館

甲陽軍鑑巻第四目録

小幡尉景の事

[illegible]

[illegible]

付長坂長閑入道の事

信玄公御年の事

信玄家系の事

[illegible]

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
04-003
国立国会図書館

小笠原源氏軍配手摺之事

一甲州はらさて源氏の兵よてんぐやたり
ものくのうちに孔雀の文戸とをの
ものへ知らるやうに思ふの名を合
するを度々ひしめいむしのもの
ものをいとく文をんを名乗をとをの
このむやうをちをとをうをのをやをを
をんををとをををををををををの
のををいをとををををををををを
永福寺年よりの中物をんをの付紙を

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
04-004
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-005 国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-006

国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-007

国立国会図書館

甲陽軍鑑 3 35冊 WA32-1

04-008

国立国会図書館

甲陽軍鑑 3 5冊 WA32－1
0 4 － 0 0 9
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

国立国会図書館 04-010

同九年の天文十六年丁未年村上との
ついかつせん信玄公九十六ケ度のせりあひ
おりふし駿河より甲州へ来り侍る
天文十二年にはしめての正月信玄公廿三歳
のおほけなや駿河甲州へ来り十年の中村上義清と
此合戦おりの信玄公は切ちかけほとの
半村上衆と九年の内毎年の戦ありて
せりあひて天文二十年の六月より出て長尾輝虎公
十七さい信玄公卅三歳にて両大将の
いくさのはしめかくのことくなり

くらんさいの軍にことくと見あへて信
玄のくとけいそしてよろこひにかりてそて
在年をわくてやうりのや

天正三年亥六月吉日　高坂弾正忠記し

判　跡部大炊助殿　長坂長閑　参

ある法令の事

永禄十二年つちのとの巳年より翌年午七月
まて天正の内のおかりより信玄公四十さい
のおほけなりしかは江州石寺のしるしそしれ

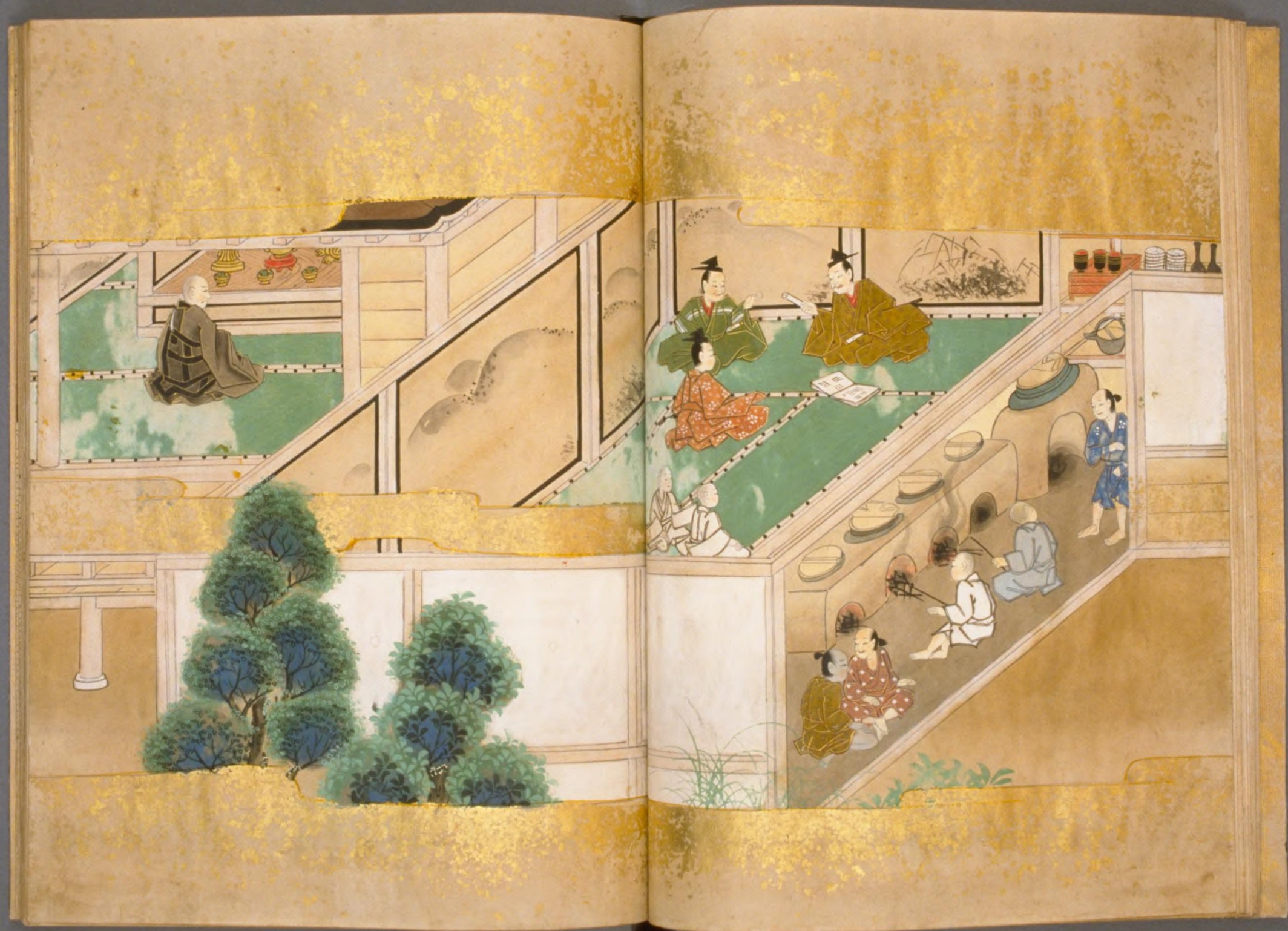
甲陽軍鑑 3 5冊 WA32-1

時明信長をてをやしなはるゝ事
なをのゝしりてくれのゝしることうけたまはり
とも正信は内典外典にふかくうち
ゝゝとおもはれ列祖のことをかゝ
百世の知識代わくことをかゝ第十の
古庫とゝ下さい芸庫とびやうんさう
ゝゝくうゝ世武家三河守殿称
為人ゝ高ゝくたの宗是古道と芸庫ゝ
おゝくみゝゝ法ゝんてゝゝの分書を
ゝ仏さまゝゝけのゝゝゝゝし

りとゝ今世にゝゝのゝゝにゝのの
てゝにゝゝゝ世にゝくゝゝゝゝ
ゝ家ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ国軍のゝけゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ家のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
二ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

04-012
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
04-013



甲陽軍鑑 3 5 冊 WA 3 2 − 1
0 4 − 0 1 4
国立国会図書館

甲陽軍鑑 3 35冊 WA32-1

国立国会図書館 04-015

甲陽軍鑑 3 5冊 WA32-1

04-016

国立国会図書館

さて一時しやうらうしきも少織たいの行
らし甚六しやうれのくしくとしく軍ゐて
こし迎きのみちしかる行からの小高十六
歳より両年ゝて六十大年のちまてしく此
ゑんみくよらは今五十歳すくしみゝる
みやく利しよ旡境わしけ能のこしかしくしよ
つに我移ふの国しくとてゝてしけら
まし呉えんいろや甲州へ一日二三行の見え
あれんともへつゝくの字よ有すつてゝまま
ゑん乃井はつゆけの明かにしれ私花つさん

行香の歌かへしてわかちふとせつは好年
まなんくともてつきれつゆふうのゝまん
乱へのかくき信玄のかすちちれとく
あ行しと計りまくしは信玄し第ふそう
此にれなりのまつれ志せんの仕合あれし大将
ともてけんとりきやたれくのみむ
ありてふ諏訪の行様りの乱とあるし候
まふ定むくうてきゆうへ人よ行らは
もしきとのさらん

一甲州両郡十日市場にうちてよつかまくらん

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-018 国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-019

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
04-020
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

004-021

国立国会図書館

あへし御まもりてうかんせうしやうりかうの
ふゆ人へさんてくハ毛乃人のうらみハし
悪人ハ毛ハけんさいハミらいらせにつらね
うきと見付くれもし又さうぞくいげ令
いつわりならてしてやしくわれてあの
もまとうろ人の六十六年のあひたわら
ミるさいばえ人多くもとろくあまた
しやう深くして去ゆくとおしけと申す
と云のやうなひさくやりうらせてぞ
ごしわれのすへとうしも見付けし

ましの国をうしれてつきひくのしくれ
の年深くてもつらんへるくいんをを
すまるへしの深へハ出頭も深せるへし
て百日されは今や

信玄公御歌之事

一甲斐国中に御出馬ましまして守定りてましまし
さるほどに永禄九年丙寅の春信玄公大将衆
の御時分為禱寺長禅寺とりしめ各の御祈禱の年し
ゐ申しとてこれ又の日に御会一首守まて候
弁の吉日 御相伴ハ小笠原慈文板坂法印

甲陽軍鑑 3 5冊 WA 3 2 − 1

0 4 − 0 2 3
国立国会図書館

国立国会図書館
04－024
甲陽軍鑑 35冊 WA32－1

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
04-025
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-026 国立国会図書館

とまれてかくもとかくもうしかいはゆる
かすかおもくとりてもうつりくとものかう
くれいまさらきりのちもかはれつまし
してあとやなんきれてさのらをしりもとく
さうかいかやうはなくまいつくしくるし
らんまとゆへし成よふれかこかいも
まつれしと七ちかてつきせいさよはは
たらかいよ成かせはれとそかりとらん
まゝかし中の今まもしかやうてうまゝ
はんとしらへかきうつらのゝ中しゆゑまよ

これのまきまきしるしおくと今さらに人なりとぞ也
今此書をば晴信公百姓をわかちへをくまもあれ
春日惣次郎大蔵彦十郎にかきうつさせ
記　松隠記　武田信玄公
右の書をひとまきよりかきしるしかく記
松よりのこの末いまゝて
高坂弾正忠入しく付申のみ
はかりなのくもりをはん

天正三年乙亥六月吉日　高坂弾正忠
春日惣次郎
大蔵彦十郎
まいる

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-028

国立国会図書館

甲陽軍鑑 3 5冊 WA32-1

0 4 — 0 2 9
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
0 4 -0 3 0
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

国立国会図書館 04-031

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-032 国立国会図書館

ここもの〇とつまると云ものにくしくとて候
のおんとしてうまへしまうけのまゝく
つまし百姓ゆくゆのもれくらわしき次
第やてんまうえ末工藤源左衛門して見
と云信虎公のゆもちゐるしけれのち
信玄公へのくけりくとつてゆきくとも
うも今内藤修理亮跡式二百五十騎の
将とするに人もゆるしてゆるもさく
去るとせひそてつのくわさうしにまそつ
らの内藤かとよつくるやうにみるらんとれ

内藤とのへ山縣馬場みのとのへ維ゆるより付

春日とは小山田ゆへて

東原人わたのまくら

しつてしる人

かくふ

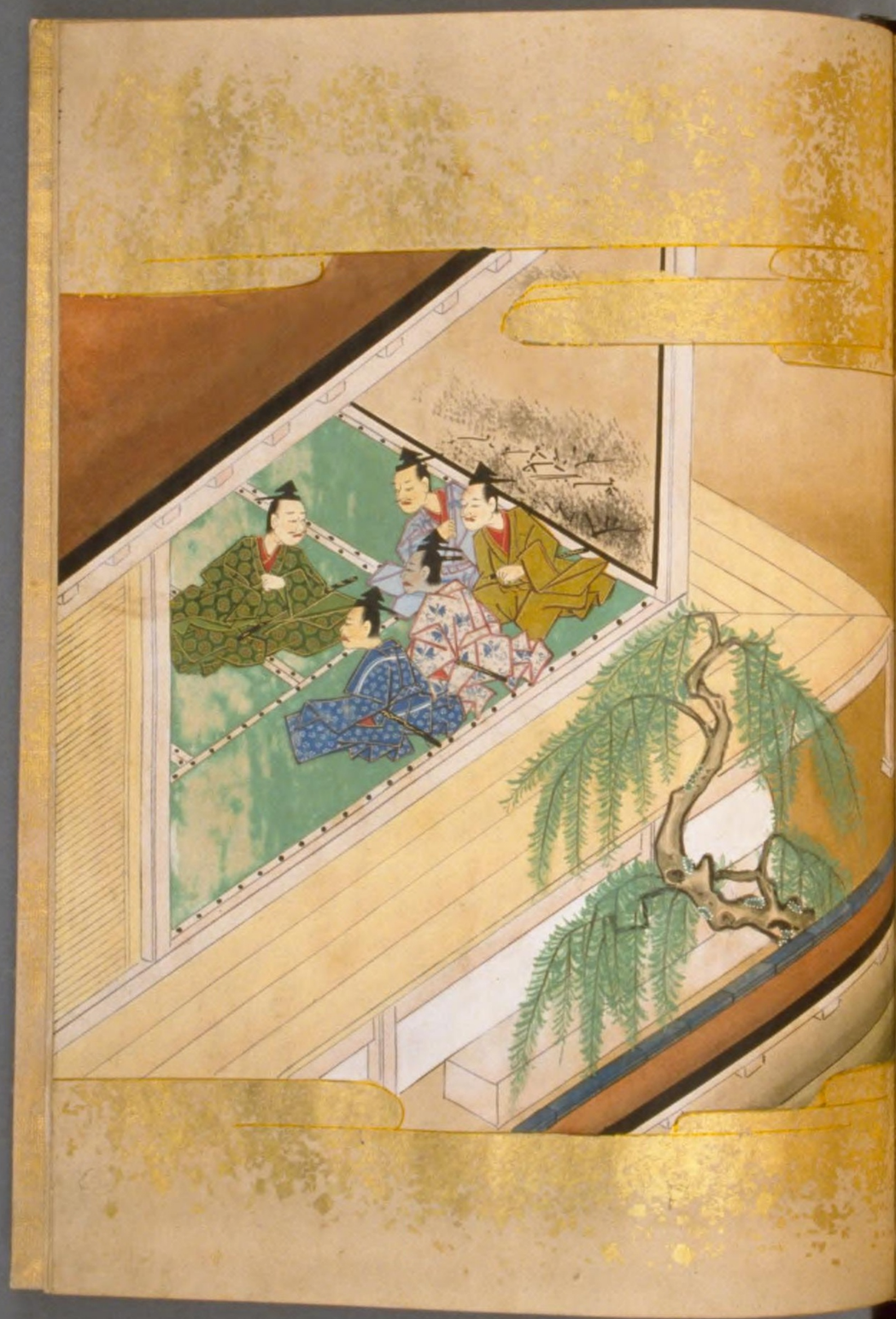
甲陽軍鑑 35冊 WA32-1
0 4 — 0 3 4

其日も宗信信玄公の御前へよひよせそのく
人のかたちゑかりわ同しのくらんと申さ
きたふの御おりとより一城の内にて弓矢
事と太郎は何の事とかくかりの人に思
案とはかりはかりやきんとものあらし
かりなと見やりてん信玄とは信玄公ゟかり
とおかれし岩村まつくおちのかたく存此
事のしに入の人と作もちつきのかりわ
とらかも一人はきめきと太守のかたへ上
る十四日しくかたゑしもてかつかに

りかしの家康ハかへかくのへは其上信玄
しりらん六年ほくおりしれ年
ては二ヶ条ゟかしく深京のかかりと
のもしに入道又御氏康公の御代はらる
ぬ曲年の喜条とかくく小城とも甲府
行てつかせやらんてくもらるかれぬまく
のかくにくつの城とせのかきれもの
ましてて信長ゟかり山県ら出陣の上は
まかく出しかれはかの人をかく
たちまかりわもとハ去年の三月も信

甲陽軍鑑 3 5冊 WA32-1

04-036



甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

04-037

国主と家老と中わろくなりゆけは御家の人
はやうくつれハちいさきゆへくらうなれ
のちに此命つかふまつるゆへもと
ゆみ矢もしらすや身にては去年拾
月廿八日にうせしその前へ出し候まてにて御
ミにかはりし人家老此人けんいさめても御家
川中島にも年五月廿一日に長篠のかく
うちけにひとくうちまけほうそのつ
とくし中ても跡部大炊助長坂長閑両人
此両人のんしてふかくなる人つかハいかハ

けんやうかうしハ武田の家のくさるへく
なれつるへとよくしつやもいへと長坂長閑
跡部大炊助かうさかはかりて人のつれなき

天正三年乙亥六月吉日　高坂弾正忠書之

此書長坂長閑跡部大炊助ハせんさくし給へ
ともかくハ御家のつくりうちいれ
ちやもし又ハ武田の家をあへくるし
ましんの事

甲陽軍鑑　３５冊　WA３２－１

０４－０３９

国文研究図書館

甲陽軍鑑　３５冊　WA３２－１

０４－０４０
国立国会図書館